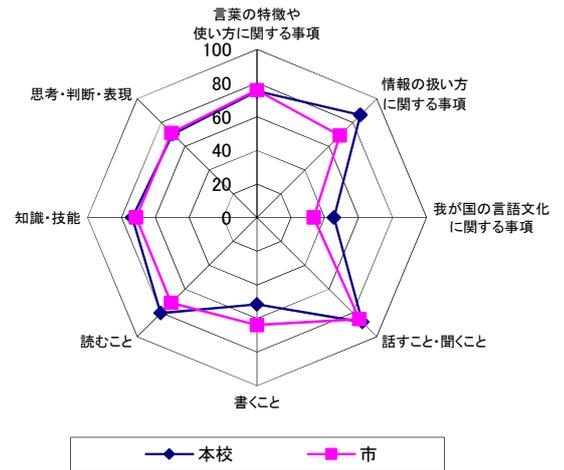


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	86.4	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	45.5	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	87.9	85.5	86.5
	書くこと	51.5	63.9	65.8
	読むこと	80.3	71.6	69.5
	知識・技能	73.6	71.3	72.9
観点別	思考・判断・表現	70.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

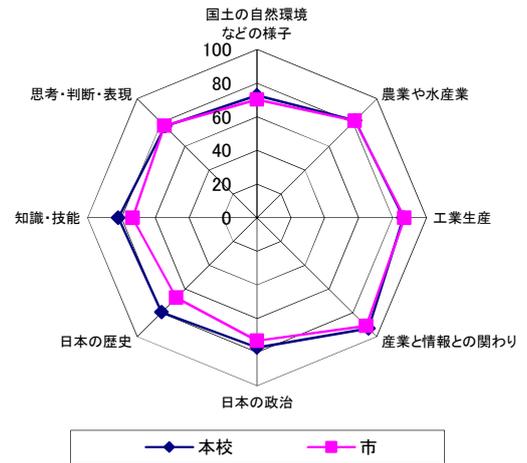
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「宇宙」「並ぶ」の読みの問題は、正答率100%であった。 ○敬語の使い方が誤っているものを選ぶ問題では、市の平均正答率を8.7ポイント上回った。 ●熟語の成り立ちが同じものの組み合わせを選ぶ問題では、市の平均を21.7ポイント下回った。 ●文と文との接続の関係を問う問題では、市の平均を6.8ポイント下回った。	・漢字の書き取りは、5年生の配当漢字を出題されている。繰り返し復習させることで定着を図っていく必要がある。 ・さらに語彙を豊かにできるように、国語の授業や朝の読書、他教科での振り返りなどで、語感や言葉の使い方を意識させる。
情報の扱い方に関する事項	○原因と結果など情報と情報との関係について問う問題では、市の平均正答率を17.3ポイント上回った。	・日頃から文章を読んだり書いたりすることに慣れ親しむような課題に引き続き取り組ませていく。 ・また、文章を書く際の情報の集め方や整理の仕方の指導過程を大切に、情報と関連付けながら文章の構成を考えられるよう、丁寧に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○市の平均正答率を12ポイント上回った。和語、漢語、外来語を理解している。	・和語、漢語、外来語については継続的に復習させるとともに、語句の由来や区別についての調べ学習を通して、興味関心を高めてきたい。
話すこと・聞くこと	○話の内容をとらえる問いでは、正答率100%であった。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえる問いでは、市の平均正答率を1.6ポイント下回った。	・話の内容を的確にとらえることを授業中に意識させ、相手の話をよく聞く習慣を定着させていく。 ・今後もペアやグループ活動を積極的に行い、目的に沿った話合いの指導を継続する。
書くこと	○目的や意図に応じて書くことを選び、伝えたいことを明確にする問いでは、市の平均正答率を13.2ポイント上回った。 ●市の平均正答率を12.4ポイント下回っている。 ●目的や意図に応じて自分の考えを書く問いでは、市の平均正答率を33.4ポイント下回った。	・自分の考えを書く活動を継続して行い、字数や段落を意識して書く力を育てていきたい。 ・各教科や活動において、自分の考えをまとめたり振り返り活動を取り入れたりして、書く時間の確保を行う。
読むこと	○目的に応じて文章の情報を整理する問いでは、市の平均正答率を20.1ポイント上回った。 ●登場人物の心情について描写を基にとらえる問いでは、市の平均正答率を4.3ポイント下回った。	・叙述を基に、登場人物の心情や人物像を想像する学習活動における支援を工夫していく。 ・引き続き、朝の読書の時間の確保や日頃からの図書室の利用など、多様な文章に触れる機会を設定する。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.7	70.3	66.4
	農業や水産業	81.8	81.6	75.3
	工業生産	86.4	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.2	91.0	81.3
	日本の政治	77.3	73.2	75.3
	日本の歴史	79.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	81.8	73.5	72.5
	思考・判断・表現	76.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

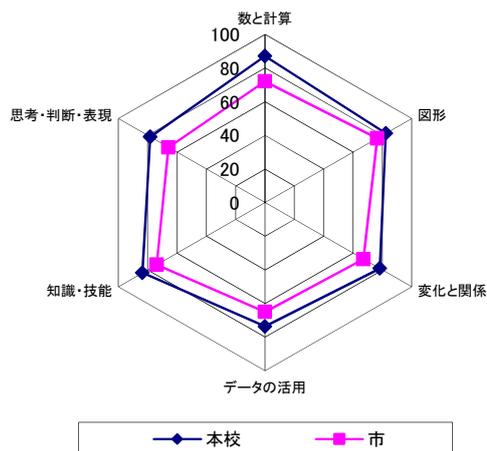
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「日本の周辺の海洋名について理解している」問題では、95.5%と高い正答率で、市の平均正答率を10.8ポイント上回った。 ●「自然災害発生場所の理解」についての問題では、市の平均正答率を14.8ポイント下回った。近年、日本国内で起きている自然災害についての知識が不十分であった。	・地震や火山噴火、大雪など、近年日本国内で起きている自然災害について、新聞、ニュースなどを活用することで、より関心をもつことができるようにする。また、天候、地形を災害と関連付けて考えることができるよう地図や写真、データなどの資料の活用について継続して指導していく。
農業や水産業	○市の平均正答率を0.2ポイント上回った。特に、「魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する」問題では、校内正答率が100%と高い正答率であった。	・今後も農業や水産業に関する情報(収穫高の推移、従事している人の工夫など)を授業等で話題にし、自分たちの生活とのかかわりについて考えるようにしていく。
工業生産	○資料をもとに、日本の貿易の変化を記述する問題では、86.4%と高い正答率で、市の平均正答率を9.0ポイント上回った。 ●「自動車の製造工程」についての問題では、市の平均正答率を6.8ポイント下回った。製造工程に関する用語の理解がやや不十分であった。	・グラフなど、資料を読み取り、文章化する力がついてきている。今後も資料にある情報を簡潔にまとめる、重要な言葉を抜き出すなどの学習を継続していく。 ・溶接、組み立てなどの自動車製造に関する言葉の意味や機械化の目的について、理解を深めることができるようにする。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率より2.2ポイント上回った。また、情報を生かした産業について考える問題では、校内正答率が100%と高い正答率であった。	・SNSの利便性や危険性を理解し、適切なSNSの使い方を学ぶ機会を設けていく。また、様々な情報の中から、正しい情報を選択できるよう情報活用の仕方を今後も継続して指導していく。
日本の政治	○基本的な人権の尊重についての問題は、校内正答率90.9%で、市の平均正答率を22.1ポイント上回った。 ●租税の使われ方、生活を支えるための役割についての問題では、市の平均正答率を7.9ポイント下回った。	・租税について、使われ方や役割を生活と関連づけることができるように指導していく。 ・新聞やニュース、SNSからの政治に関する情報を、授業の他に、朝の会等で話題にするなど、自分の生活と政治とのかかわりについてより関心をもつことができるようにする。
日本の歴史	○市の平均正答率を12.1ポイント上回った。また、歴史に関するほとんどの問題において市の平均正答率を上回った。 ●弥生時代についての理解を問う問題では、市の平均正答率を15ポイント下回った。	・歴史的出来事や文化など、現代の生活に影響を与えているものを、授業や修学旅行など様々な機会を通して、関心をもつことができるようにする。また、写真、年表、地図などの複数の資料を活用し、その時代の出来事と政策、建造物などを関連づけて考える活動を今後も継続して行っていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	87.2	72.1	74.6
	図形	82.3	76.5	76.1
	変化と関係	78.2	67.1	59.7
	データの活用	73.6	65.0	64.5
観点別	知識・技能	83.5	73.8	74.7
	思考・判断・表現	78.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

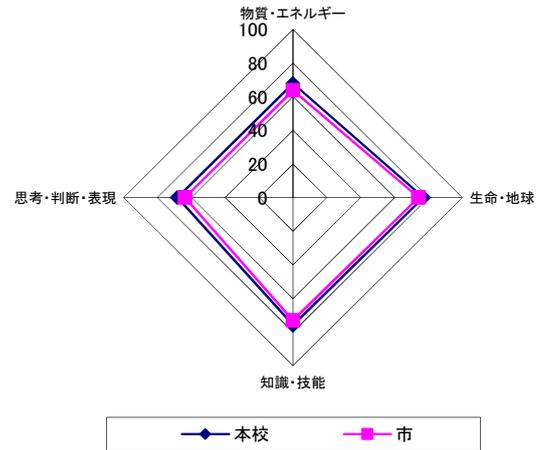
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数のかけ算, わり算の正答率は, 95.5%, 77.3%で, 市の平均正答率をそれぞれ15.7ポイント, 7.1ポイント上回った。 ●比較量, 基準量が分数の場合において, 比較量が基準量の何倍かを求める式を選ぶ問題の正答率が63.6%でやや低かった。	・小数のかけ算, わり算のしかたについては, その意味を再度復習し, 小数点を移動するという手続きの仕方に帰着することを確認して, 定着を図る。また, 何倍かを求める計算においては, 簡単な整数や小数に置き換えて問題を捉えやすくさせたり, 図や式などを用いて考えさせたりすることで定着を図るようにする。
図形	○平行四辺形の面積, 半径が与えられた円の面積を求める問題の正答率は81.8%, 86.4%で, 市の平均正答率をそれぞれ6.6ポイント, 2.4ポイント上回った。 ●線対称な図形の対応する点についての問題の正答率は40.9%で, 市の平均正答率を10.2ポイント下回った。	・様々な図形の面積を求める公式を復習し, 多くの類似問題を解くことでさらに定着を図る。線対称な図形や点対称な図形では, 対応する辺の長さ, 対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを理解し, 対応する頂点, 辺, 角を見つけることができるように, 実際にかいたり測ったりする活動を取り入れることで定着を図る。
変化と関係	○項目全体の校内正答率は, 市の平均正答率を11.1ポイント上回り, 78.2%であった。問題別にみると, 特に速さと時間から道のりを求める問題は95.5%, 単位量当たりの大きさを求めて値段の安いほうを求める問題は86.4%の正答率で, 市の平均正答率をそれぞれ8.2ポイント, 22.4ポイント上回った。	・基準量と割合から比較量を求める問題は, ややつまずきが見られたので, 日常生活の場面を問題にしたり, 文章問題に多く取り組んだりして, 基準量, 比較量, 割合の概念に慣れさせ, 身近な問題として定着を図る。
データの活用	○項目全体の校内正答率は, 市の平均正答率を8.6ポイント上回り, 73.6%であった。特に, 円グラフを正しく読み取る問題は市の平均正答率を20.6ポイント, 値に0がある平均を求める問題は10.8ポイント上回った。 ●ヒストグラムの特徴をもとに, 平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する問題は, 市の平均正答率を0.9ポイント上回っているものの, 校内正答率は36.4%であった。	・値の求め方や表への表し方, 読み取り方は定着していると考えられるが, 正しいか否かの理由を求められると, 表現に戸惑う面が見られるので, データの着目する部分や説明に必要な言葉などを指導し, 類似の問題にも多く取り組むことでさらに定着を図っていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.9	63.8	61.6
	生命・地球	77.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	75.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	68.2	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市より4.1ポイント上回った。特に、「ふりこの周期の測定方法」や「ろ過の仕方」などの実験の基本的な操作方法が定着しており、市より10ポイント以上高い結果であった。</p> <p>●「電磁石のはたらき」では、電磁石の性質をごみ処理場で利用するなど知識に関わる理解で課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験では、引き続きなるべく全員が実験器具に触れることで、実験の基本的な操作方法などの基礎基本が定着するようにしていく。 ・学習した内容が正しく定着するように、一人一台端末やプリント学習で繰り返し確かめていく。
生命・地球	<p>○平均正答率は、市より2.9ポイント上回った。特に、「流れる水のはたらき」や「動物のからだのつくりとはたらき」においては、「しん食」や「脈はく」についてよく理解しており、市より10ポイント以上高い結果であった。</p> <p>●「月と太陽」では、月の位置と見え方を調べる実験で、ボールが月を表していることなど知識に関わる理解で課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「身の回りで起こる事象や生活に結び付けて授業を展開していく。 ・できるだけ実物を観察する機会を多く設けていく。 ・仮説を確かめる実験を構想できる力を身に付けるように指導していく。

宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	・児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「勉強が好きか。」という問いの肯定割合は、ほとんどの学年で市を上回ったか、平均並みである。しかしながら中学年以上で、肯定割合が低くなっている。 ・「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」という質問の肯定回答は市の平均並み、もしくはそれ以上の学年がほとんどである。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話し合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、市の平均と比べると、1・4・6年で平均を下回り、2、3、5年で平均を上回った。 ・3、4年生の「ものごとをくまらながら考えている。」と5、6年生の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いについての肯定割合は市の平均を3、5年で上回り、4・6年で下回った。
基礎的・基本的な学習内容の定着のための工夫	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、算数の習熟度別授業を行ったりして学習内容の定着を図っている。	(6年生の調査から) ・4教科の基礎問題では、国語以外の教科で市の平均を上回った。 ・国語では目的に合わせて書くことについて、正答率が低かった。算数では、ほとんどの領域で正答率が市を上回ったが、対称な図形についてやや正答率も低くなった問題があった。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。 ・学校が休みの日に「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・宿題の提出に関する問いの肯定割合は、低学年は市の平均を上回っているが、中学年になると、平均並みで、6年生は下回った。学年が上がるにつれて低くなっている。 ・3年生以上にある「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の質問では、ほとんどの学年で肯定的割合が市の平均を上回っている。 ・読書量の質問では、4つの学年で市の肯定割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習に対する取組について、児童の学習意欲について課題が見られる。どの学年も「勉強をされていて、おもしろいと思うことがありますか」という質問の肯定割合が全学年80%以上あることから、成功体験を充実させて自己肯定感を高めていくようにする。
- ・学んだことを使えば「解決できる」と思えるような課題を設定したり、「解決したい」と思えるような課題提示の仕方を工夫したりして、学習意欲が高めるようにしていく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、自分の考えをしっかりと持つために考える時間を確保して、一人一人が自信をもって発信できるようにする。また、対話的な学びで自分の考えを深められるよう視点を示して、さらに効果的な話し合いの方法を考えていく。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着のために、朝の学習の時間で、担任以外の職員と連携して、より効果的な時間となるよう取組を見直していく。
- ・家庭学習の充実と習慣化のために「進んで学習している」と感じられるよう、効果的な自主学習を家庭に発信したり、児童の実態に合った宿題を担任間で共有したりして、宿題を含めた家庭学習を充実させる。
- ・「家読」の時間を週末に設定したり、親子読書を推進したりして家庭での読書の習慣化を図る。